荒牧 弘敏 議員

町の頑張る人への応援施策は

岡崎総務課長 町単独で各種支援策を取り組む

問 主な支援施策については。

岡崎総務課長 地域づくりの分野では、地域づくり活動支援事業補助金などで、地域づくりを頑張る団体（47団体・678名）、福祉分野では介護手当など在宅介護（27年度26名・28年度12月末21名）、教育分野では奨学金（33名・継続25名新規8名）、学習支援では上毛塾（118名）、英検塾（68名）、子育ての分野では新たに昨年度より子育て応援プロジェクトとして、講演会・講習会などを行っており、子育て支援センターのスタッフ増強など、各分野もしっかりと継続、内容の増強を行っている。農業の分野では、国・県の補助制度を有効に活用し、町農業振興補助金交付要綱などにより、各種支援を行っており、町長の施策方針である「頑張る人を応援し、元気な農業に」に基づき、農業関係者の意見や要望を伺いながら支援策を充実する。

東九州自動車道騒音調査結果と防音壁設置は

問 騒音調査結果及び、防音壁の設置は。

福本建設課長 開通後、住民の方より騒音に対する苦情相談が上がっており、28年の10月に町内5地点において騒音測定を実施した。結果については、5地点とも全て環境基準値（日中70デシベル・夜間65デシベル）以下の結果が出ており、防音壁の設置はすぐには難しいと考えている。豊前・中津インターの交通量が当初の推計値より大幅に伸びており、今後の交通量などを注視し、町民が快適な生活環境が送れるよう道路管理者である西日本高速道路株式会社とも協議を重ねて設置に向けた要望を行う。

道の駅の売上状況と「フィエロ」の相乗効果は

問 道の駅しんよしとみの売上状況と、10月にオープンした「フィエロ」の相乗効果は。

福田企画情報課長 東九州自動車道の開通とともに客数、売上とも26年度、27年度、28年度と環境の変化が影響し、前年割れの状況である。10月にオープンした「フィエロ」の影響により、客数は月にして3500人程度増加している。さらに、「フィエロ」を活用することにより、道の駅全体の相乗効果が得られるように、今後も道の駅と協議する。

ピッツェリア「フィエロ」

コモンパーク彩葉の状況は

問 販売状況は。

福田課長 11月末実績で、56区画が販売済みで、残り21区画である。

問 販売完了の予定は。

福田課長 早急に完売するよう住宅メーカーと随時協議し、販促活動を行っている。

坪根町長 消費税が上がるまでには完売するよう努力する。

コモンパーク彩葉

農業振興策は

問 生産調整の28年度実績と29年度計画は。

垂水（勇）産業振興課長 28年度計画47.7%に対し、実績52.5%である。29年度計画について国は、生産数量目標を現行より8万トン減の735万トンと11月末に示した。正式な転作率については、12月下旬に県から示される生産数量目標をもとに、2月開催予定の上毛町地域水田農業推進協議会の審議を経て決定される。

問 30年度から生産調整の見直しがいわれているが、農業者への理解に向けての取組みは。

垂水（勇）課長 29年度には、30年度に向け、関係機関と連携を図り、農業者に周知を図っていく。

問 第二次総合計画において、町の基幹産業である農業の基本的な方針は。

垂水（勇）課長 第二次総合計画は現在策定中で、基本的には第一次総合計画を踏襲する形で、担い手の確保・育成、生産性・収益性の高い農業の推進、そして農林産物のブランド化の推進などに引き続き取り組んでいく。

土木・建設予算は

問 土木・建設予算の執行状況は。

岡崎課長 土木・建設費関係の執行状況は全体で85.6%である。

問 予算執行残の今後の扱いは。

岡崎課長 自治会などの要望を精査し、執行していく。

宮崎 昌宗 議員

交通弱者対策の充実を

坪根町長 十分に協議し今後検討したい

問 乗合タクシーが満席で乗れない状況をよく目撃する。マイクロバスなどの車両に変え、乗れる人数を増やせないか。拡充できれば高齢者だけでなく、学生が高校通学などで駅まで行く事もできる。

岡崎総務課長 乗合タクシーは協議会を開き、陸運局から許可を受けている。吉富町との共同運行でもあり、車両の更新も必要で、簡単にはできない。

問 不便さが人口流出の原因となるのでは。公共交通の充実を高齢者だけでなく、免許を持たない子どもたちのためにも、努めて頂きたい。

坪根町長 利用件数やコースなど十分に協議して、今後検討していく余地はあると考えている。

問 合併当初、デマンド方式※の乗合タクシーを検討していたはずだが。

岡崎課長 まだ検討にまで至っていない状況である。

※デマンド方式
定まった路線を走るのではなく、利用者の呼び出しに応じることにより、適宜ルートを変えて運行されるバスのこと。

問 全国的に高齢者の運転事故が増えている。いつまでも安全に運転してもらうために、自動ブレーキシステムや、踏み間違い予防装置などの購入補助を考えないか。

岡崎課長 現在、免許返納に向けての様々な取り組みを検討している。提案の購入補助は政策的に相対する部分もあるので、全体的なものを考えながら検討していきたい。

町でパスポートの発給を

問 大分県の全市町村でパスポートの発給業務を行っている。豊前市では福岡県初の権限移譲を受け、発給業務を行う準備をしている。住民サービスの向上のため上毛町も取り組まないか。

※豊前市で行う予定の発給業務は市外の方は利用できません。

佐矢野住民課長 権限移譲を受けた場合、町民は本町でしかパスポートの申請・受け取りができないことになる。例えば北九州市に勤めている方は、日曜日も受け取りができる北九州パスポートセンターを利用できなくなり、かえってサービスの低下になる可能性がある。

問 町内にいる方を一番に考え、事業に取り組むのが行政のあり方ではないのか。住民サービス、利便性の差が人口流出につながるのでは。マイナス思考ではなく、プラス思考で検討して頂きたい。

町長 優先順位からすれば優先されるものではない。あるに越したことはないので、豊前市の状況を見極めて検討していきたい。

大池公園周辺施設の指定管理は

問 前指定管理者とのトラブルの結末は。

福田企画情報課長 前管理者の㈱大平楽と㈱果樹農園森の風に対し、損害賠償請求などの手続きを行っていた。28年7月に裁判所から破産手続廃止の決定があり、通知が来ている。会社が破産し、損害賠償などに見合う支払い能力がないことで、訴訟手続きは終わっている。損害賠償請求の総額は3911万9350円。

問 現在の管理体制は、来年度が契約の最終年度となる。公募などはどのように行う予定か。

古原教務課長 運動公園は現在、公益社団法人豊前上毛シルバー人材センターが行っている。この法人は高齢者の社会参加や、健康や生きがいの充実、地域社会の発展といった公益を目的に事業展開しており、公募などによる新たな指定管理者は考えにくい。

福田課長 大平楽などは、基本的に法や条例に基づき施設を一体的に管理できる候補者の募集を行っていく。

問 前回の反省点として、公募期間が短いと批判があったが。

福田課長 前回の公募を参考にし、時間的余裕を持って対処していきたい。

空き店舗を活用し起業支援を

問 福岡ひびき信用金庫宇野支店を官民連携し、活用できないか。

岡崎課長 民間の土地建物なので、町として早急に対策や活用を考える物件ではないと判断している。

問 お試し居住事業で、田舎でもIT関連などの仕事ができる方が来町したが受け皿がない。チャレンジショップやワーキングスペースとして、起業支援の拠点として活用できないか。

町長 民間の物件なので難しいと考える。旧麦酒館が町有となったので、これまでの経緯を教訓にして、整備していきたい。

閉店となった福岡ひびき信用金庫